



藍生かし直し展  
京都 gallery approach  
2022年



藍生かし直しメンバー

梅崎 由起子

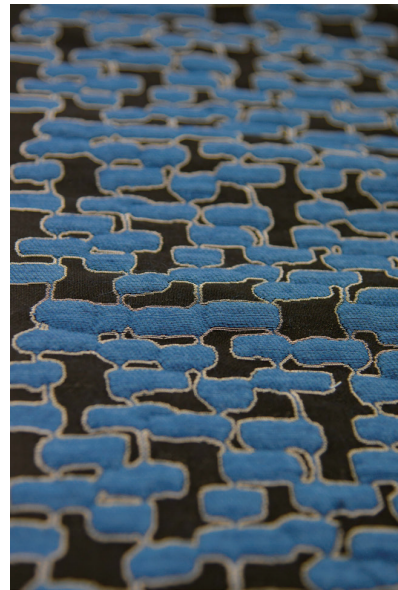
藍生かし直しプロジェクト

藍と西陣織の融合

藍生かし直し展



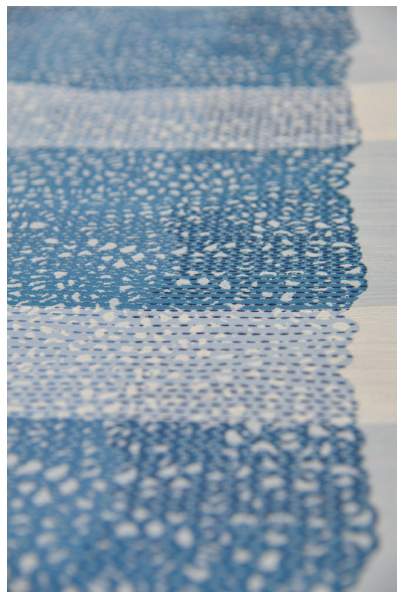
西陣織のプロダクト  
麻・絹・本藍・化学染料  
32cm×28cm×8cm 2022年



「bubble (吹き出し)」  
麻・絹・本藍・化学染料  
34cm×400cm 2022年



「藍咲く時」(学生作品)  
麻・絹・本藍・化学染料  
34cm×400cm 2022年



「loop」  
麻・絹・本藍・化学染料  
34cm×400cm 2022年

撮影：中尾 あつさ  
プロダクト制作：丹羽 裕美子

参考文献：「KATAGAMI Style」展 図録 二〇二二年

「藍生かし直し」は知っていた物事を新たな視点から再構築することを目的とし、以前より取り組んできた内容です。今回の新たな視点は「染物から織物への転換（原点回帰）」、そして「藍染と西陣織の融合」です。プロジェクトの始まりは、型染の歴史を紐解く中で文献から見つけた『小紋』が型染の始まりであり、紋織の代わりに紙による型染が登場したのではないかと、という一節でした。そこからオリジナルの型紙を基に紋織を制作できないかと発想を転換し、西陣織に藍染が施された織物を制作することにしました。藍をキーワードに学生選抜チーム（通信教育部・通学部・卒業生）を編成し、約半年の間フィールドワークを中心とした研修とデザイン、糸染をし、西陣織の職人と共に織り上げ、展覧会を行いました。高級絹織物の代表である西陣織と、庶民文化の藍染が出会い織りなす世界は、「藍生かし直し展」の来場者にとって沢山の気づきの場となったと思います。